資料１

学校の働き方改革推進に向けた有識者会議
（令和８年１０月２８日　第４回会議資料）

令和８年１０月　東京都教育委員会

有識者会議（第3回）の委員発言概要
～教員の働き方に関する意識調査結果～

発言要旨

教員向けアンケート結果

- 「以前と比べて働き方が改善している」や「育児や介護のための休暇制度や時差勤務等の勤務制度を利用しやすい」では、管理職と教員の間で認識の差が見られ、その差を埋めることが必要。校長は、教員との認識差が生じないよう職員室の実態を十分に把握し、学校経営上の課題解決を図るべき
- 業務の見直しが進まない理由として、「学校単位では判断が困難」とされた業務は、教育委員会単位で削減や外部委託を進めることも検討すべき
- 業務の「見直しの具体的な方法が分からない」が12.9%となっているが、成功事例の共有で解決することも多い。学校の事例を紹介するポータルサイトを充実させる等、事例を横展開することが重要
- 「教材作成や分掌の担当業務等においては、業務を自分で一から行うことが大切」という職場の雰囲気があるは38.9%となっているが、一から行うことは非効率であり、民間の感覚からすると高い数値である。アンケートに回答したことで、改善に繋がったと教員が実感できるような施策展開が重要
- アンケートの設問は各学校でも活用できる。各学校でもこのアンケートを議論のきっかけとして、自分の学校はどのような状況か検証していくことが重要。アンケートの結果を学校や区市町村教育委員会に周知することが必要（回答率が46.5%と高かった。夏休みの時期に実施するなど調査のタイミングが良かったことや、自由記述なしといった点も、回答率が高まった要因の可能性がある。今後の参考にもなる。
- 回答者の多さは、教員の働き方への期待の表れとも捉えられる。＊
- 校種や職層といった属性とのクロス集計だけでなく、設問間のクロス集計も行うとよい。

（注）＊印：オブザーバーの発言要旨

有識者会議(第3回)の委員発言概要
～テーマ１　教育に専念できる時間を生み出す働き方～

発言要旨
外部人材の活用 • 外部人材を増やすことが必要だが、十分に活用していくことも重要。管理職のマネジメントの視点が大切 • エデュケーション・アシスタントにより、これまで担任が行っていた細かな学級事務を外部人材が担い、その時間を保護者対応や児童への指導に充てられている。スクール・サポート・スタッフも、事務の軽減に役立っている。いずれも、学級規模が大きいと、学校に一人では足りない。＊
外部委託（アウトソーシング）の推進 • 外部委託に積極的に予算をつけていくことで、教員の負担軽減効果の実感につながる。 • 外部委託の取組状況は、区市町村によっても進展度合いが異なる可能性もある。十分に把握し、事例を集めることが重要 • 「教員でないと担えない」と考えられている業務であっても、大胆に外部化し、校長が最終決定するプロセスを導入することも考えられる。従来と異なる抜本的な改革を行うことで、教員の意識改革につながる可能性がある。＊
取組の横展開 • 今後、学校ごとの分析を進め、取組が進んでいる学校と課題がある学校の違いを分析し、良い学校の事例を横展開していくことが重要 • 改善の事例は多くある。学校現場が知らないことも多いので、周知していくことが必要 • 同規模の学校の取組事例等をすぐ検索できるような仕組みがあるとよいのではないか。 • 先進的な好事例があっても、自分の学校には合わないと壁を作って参考にしない学校もある。自律的な改革に向けて壁を作らず検討することが必要 • 教員が先進的な取組の学校現場を実際に見に行き、イメージを持ってもらうことも効果的

有識者会議(第3回)の委員発言概要
～テーマ１　教育に専念できる時間を生み出す働き方～

発言要旨
教員の意識改革・職場風土の改善 • 机上に「定時に帰る」といった札を置くルールを取り入れることで、他の教員も退勤予定時刻を認識でき、早く帰れるようになった事例等もある。学校風土を変えていくことが必要 • 学校がチームとして動いていくために、管理職から教員に話す機会を作り、管理職と教員の距離を縮め、管理職が納得感ある方向性を打ち出し、学校を変えていくことが必要。議論のないまま、業務を従来どおりの内容・手法で安易に続け、変えることを決められないのは問題 • 教員が話し合う過程で、考えが変わったり自身の思い込みだと分かったりする。教員目線で自らの業務を改善していく話合いそのものを、各学校の文化として根付かせることが大切
業務の改善 • 各分掌業務の棚卸を、各学校で一度はやってみることが必要 • 授業準備や教材研究の効率化にとどまらず、授業そのものを改善していく「カリキュラムマネジメント」を行っていくことも重要
調査統計への回答業務の改善 • 調査回答業務は、これまでの縮減・効率化の取組の継続が必要。回答期限が短い調査なども負担ではないか。学校にどのような調査が来ているのか、一般の教員の負担がどの程度か等を分析することも必要 • 調査や資料の配布等について、行政から関係団体等に協力を求めることも必要 • 調査回答業務は負担感はある。主幹を増員し、副校長の調査業務等の補佐もさせると勉強になる。＊

有識者会議（第3回）の委員発言概要
～テーマ２　学校のマネジメント機能の強化や、教育委員会の業務運営等 ～

発言要旨
管理職のマネジメントの強化 • 管理職と一般教員の認識に差が生じる理由が、立場によるものか年齢によるものか、分析が必要 • 研究指定校の取組は必要だが、指定校になることに負担感があると聞く。研究成果が活かされ有用感をもてるようにすることと、研究を教員任せにせず管理職がマネジメントすることが重要
自律的な改革文化の醸成 • 学校の働き方改革のための一定の予算を各学校に配付し、自校に適した使途を検討・実施してもらう方法も考えられる。時限的な事業として成果を求めれば、自分ごととして取り組むのではないか。＊ • 学校の自律的な改革を進めるため、予算も自律的にするというのは重要な視点 • 誰にでもイメージしやすいように、改革の手法を提示していくことも必要
教員研修の改善 • 「校内研修」を負担と感じている教員が少なくないとあるが、研修が有益なものであれば教員は負担を感じない。研修の実施方法やＤＸによる見直しに加え、研修内容の充実も必要 • 各学校で行っている校内研修では、研修の企画に負担感がある。文科省や関係機関等が用意している研修動画等を活用することも有効＊ • 知識の伝達のみの研修はコンパクトにすることが必要 • 他自治体の先進的な学校への視察も重要。そうした研修に行きやすい職場風土作りも大切

有識者会議（第3回）の委員発言概要
～テーマ３　「デジタル基盤」や「新たなテクノロジー、データ」を活用した業務の在り方～

発言要旨

ＡＩの利活用

- 生成ＡＩにＲＡＧ※を導入することにより、教育独自の情報を取込み、回答精度が向上するのは有用。例えば、生徒指導の手法やノウハウが分かるよう検討してほしい。
- 区市町村教育委員会においても、パイロット的な取組も含め、生成ＡＩの活用を進めていくことが必要
- 事例の検索という行動そのものが、生成ＡＩの活用に切り替わっていくのではないか。
- ＡＩに任せる仕事とそうでない仕事を切り分けて活用することが重要。ＡＩにはしっかり予算を付けて活用していくことが重要
- 時間割や授業時数の作成もＡＩで実施できる可能性があり、業務削減に繋がる。
  ＡＩを活用して固定観念を払拭していくことが重要
- 統計データの分析こそ、エージェント系のＡＩを活用することが可能。そのためには、学校が日頃の様々なデータを記録し、新しい情報を登録する意識付けが必要
- 校務にかかる文書等、形式が定まり正誤を判断しやすい業務にはＡＩを活用しやすい。
  仕分け機能を使えば仕分けもできる。ちょっとした積み上げで時間の余剰が生まれる。＊
- 異動時等どこにデータがあるか分からなくなるときなどがある。ＡＩによってデータの検索、分析、課題の把握等を支援できると負担軽減につながる。＊

統合型校務支援システムの共同調達

- 様々な機能要件を調整しているということだが、仕様を固める前に試験運用を実施すべき

※ＲＡＧ（Retrieval-Augmented Generation）生成AIが回答を作る際に、外部の文書やデータベースを検索し、その情報を参照して回答を生成する仕組み

学校の働き方改革推進に向けた有識者会議のスケジュール

各回の議論の内容（予定）

第１回 **(５月２８日)**	【これまでの取組や現状と課題】 【テーマ１】教育に専念できる時間を生み出す働き方 【テーマ２】学校のマネジメント機能の強化や、教育委員会の業務運営等
第２回 **（６月２９日）**	【テーマ３】デジタル基盤や新たなテクノロジー、データを活用した業務の在り方 【第１回を踏まえた議論】 【教員向けアンケートの実施について】
第３回 **（８月２６日）**	【教員の働き方に関する意識調査結果について】 【第１回、第２回の議論を踏まえた、解決策の方向性、具体的な取組等】
第４回 **（10月28日）**	**本日の議論内容** 【第１回から第３回の振り返り、取組の方向性等】 【学校における新たな働き方に向けた実行計画 素案（案）】
第５回 **（９年２月頃）**	【最終報告】 【学校における新たな働き方に向けた実行計画（案）】

第１回から第３回の振り返り

テーマ１　「教育に専念できる時間」を生み出す働き方

主な意見

論点：時間外勤務の縮減に向け、**業務の在り方や仕事の進め方**をどのように**見直すべきか**

1 学校・教員が担うべき業務の在り方の見直し	**2 学校の文化や慣習の見直しと業務の効果的なマネジメント**	**3 教職員のエンゲージメント向上と柔軟な働き方**の推進
①**業務の「削減」**が不可欠 業務の外部化は、当然に行うべきもの。取組を拡大・加速すべき ②「**学校**における業務の見直し」と「区市町村**教育委員会**による改革の後押し」の**両輪**による一層の取組の推進 ③外部人材等**リソースの有効活用** ④時間外勤務が多い学校や教員への**集中的な取組**が必要	①今後の見直しは、**文化**や**組織風土**、**教員の意識**にまで踏み込むことが必要 ②学校が自ら変わる、**自律的な改革の文化**が根付くことが重要。また、教育委員会が力強く後押しすることが重要 ③学校**組織・人員体制**の見直し（教科担任制の推進、授業時数の見直し等） ④学校だけでは解決困難な課題を**関係機関と連携**して対応することが必要	①**若手教員**の**育成・サポート**が必要 ②ライフスタイルに合わせた**柔軟な働き方**（時差勤務やテレワーク等の勤務制度の活用、休憩時間やライフ・ワーク・バランスの確保）の推進が必要 ③**時間割の再編**や**下校時刻**の見直し、時差勤務等により、育児等のため早い時刻に退勤する教員等にも**配慮した体制**が必要

テーマ２「学校のマネジメント機能の強化」や「教育委員会の業務運営」等　主な意見

論点：教育委員会も含め、**組織やマネジメント力のアップグレード**をどのように進めていくべきか

1 校長等のマネジメントのあり方を見直し	**2 学校管理職・指導主事**のあり方を見直し	**3 教育委員会**における**仕事の進め方**や**体制**を見直し
①学校管理職・**マネジメント人材**の**育成・確保**（行政や民間からの人材を登用）	①学校管理職の**キャリアパス**の見直し（**幅広い経験**を積ませていくシステム）	①都と区市町村が歩調を合わせるため、**教育委員会への支援**も必要
②限られた時間を有効に活用するという**タイムマネジメント**が大切	②**指導主事**の**学校支援能力**の向上（学校の実情に応じた助言・支援）	②**研修の在り方の見直し**も必要。効果的な研修の実施やDXを活用した見直しが必要
③校長がマネジメントするなかで、学校としての**業務の線引き**が必要	③副校長を支える**学校運営の中核**を担う**主幹教諭の配置の在り方**	③学校を支える**教育委員会**における効率的な**仕事の進め方**や**組織の在り方**について検証・見直しが必要
④**先進的な働き方**の**モデル校**の取組を進め、**新たな学校経営**の在り方を展開・検証することが必要	④校長等が学校の改革の好事例を共有できる**ネットワーク**づくりが必要	

テーマ３「デジタル基盤」や「新たなテクノロジー、データ」を活用した業務の在り方

主な意見

論点：生成AI・データ等を活用した**新たな働き方**をどのように**確立**していくべきか

1 デジタル基盤を前提とした働き方の推進	**2 生成AIなど新たなテクノロジー**を活用した働き方の推進	**3** 在校等時間や業務量等の**データの把握、分析、活用**
①区市町村ごとに異なっているシステムについて、次世代**校務ＤＸ環境の共通化**が重要 ・共通化による更なる利便性の向上 ・分かりやすい**マニュアルの整備や研修**の充実 ②**公用スマートフォン**の貸与 ・システムの**スケジューラ機能**を活用し、教員が習慣化することがタイムマネジメントには必須 ・**運用ルール**を定めて学校に示すことで柔軟に使えることを強調することが必要（ガイドラインの整備）	①生成ＡＩを活用した校務の在り方等に関する**好事例を横展開**していくの仕組みが必要 ②都立AIについて、**エージェント機能の実装**などにより校務での更なる活用が必要 ③ＡＩに任せる仕事とそうでない仕事を**切り分けて活用**していくことが重要 ④生成ＡＩに**ＲＡＧ※を導入**することにより、教育独自の情報を取込み、回答精度が向上するのは有用	①在校等時間の**把握・管理にＩＣＴをより効果的に活用**すべき ②「在校等時間の見える化ダッシュボード」は、**他の学校との比較**が容易。個人の**意識改革・行動変容につなげる**ことが必要 ③他の学校との**比較が容易**にできるようになっている点は、**行動変容**につなげる上で効果的

※ＲＡＧ（Retrieval-Augmented Generation）生成AIが回答を作る際に、外部の文書やデータベースを検索し、その情報を参照して回答を生成する仕組み

これまでの議論を踏まえた取組の方向性

テーマ１　「教育に専念できる時間」を生み出す働き方

①学校・教員が担うべき業務の在り方の見直し	②学校の文化や慣習の見直しと業務の効果的なマネジメント	③教職員のエンゲージメント向上と柔軟な働き方の推進
・**外部人材**の一層効果的な活用 ・業務の**アウトソーシング**の拡大	・**教員自ら、業務を分析・検証**する取組を強化し、働き方改革で成果が出ている**事例を他校にも展開**	・教員の**ライフスタイル**に合わせた**柔軟な勤務体系**の推進

テーマ２　「学校のマネジメント機能の強化」や「教育委員会の業務運営」等

①校長等のマネジメントのあり方を見直し	②学校管理職・指導主事のあり方を見直し	③教育委員会における仕事の進め方や体制を見直し
・**行政**から校長への任用 ・**先進的な働き方**のモデル校の取組による**新たな学校経営**の在り方の検討	・学校管理職の**キャリアパスを見直し** ・**行政**から指導主事への任用	・教育委員会から学校への**支援の在り方**を検討 ・**教員研修**の在り方を整理

テーマ３　「デジタル基盤」や「新たなテクノロジー、データ」を活用した業務の在り方

①デジタル基盤を前提とした働き方の推進	②生成AIなど新たなテクノロジーを活用した働き方の推進	③時間外勤務や業務量等のデータの把握、分析、活用
・**区市町村**の次世代校務ＤＸ環境を**共通化** ・**公用スマートフォン**の有効活用（都立学校）	・**都立ＡＩ機能の高度化**（**エージェント機能**）	・「**時間外勤務見える化ダッシュボード**」都立学校　⇒　**区市町村立学校**への拡大

教員の働き方に関する意識調査結果

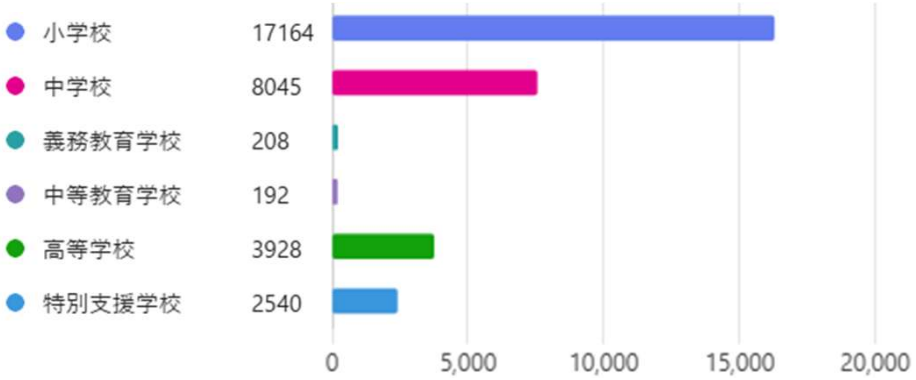
（※）有識者会議（第３回）で示した「教員の働き方に関する意識調査結果」のうち、複数の項目を掛け合わせた集計（クロス集計）を実施

（クロス集計分のみを16ページ以降に掲載）

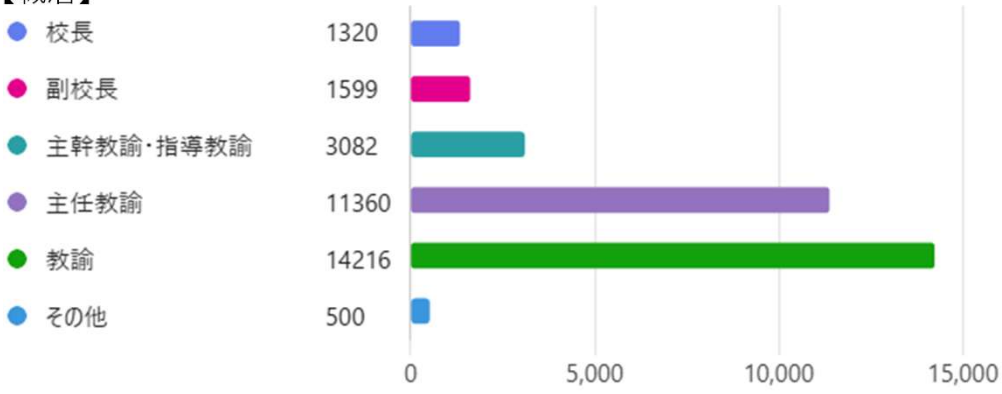
- 調査対象　都内公立学校の全教員
- 調査期間　令和８年７月22日～８月18日
- 回答数　32,077件（回答率　46.5%）

教員の働き方に関する意識調査【属性】

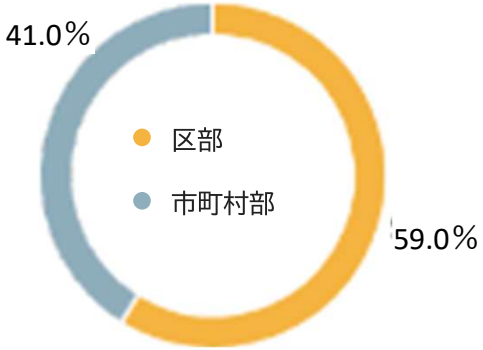
【校種】



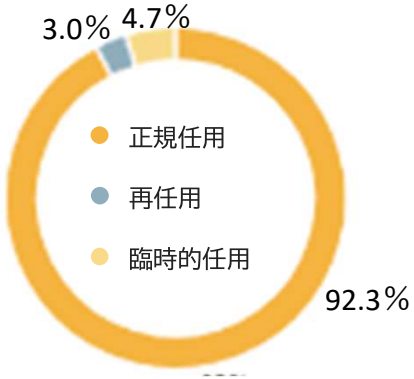
【職層】



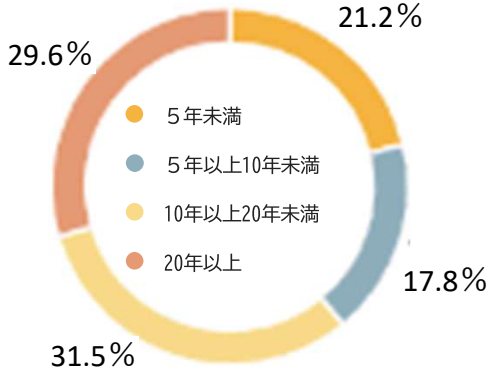
【学校の所在地域】



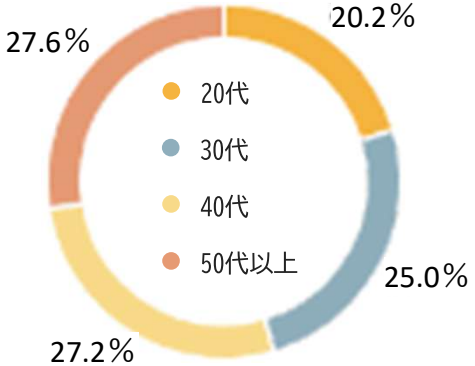
【雇用形態】



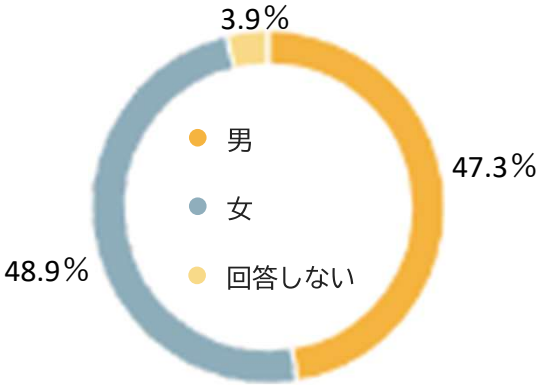
【教員経験年数】



【年代】



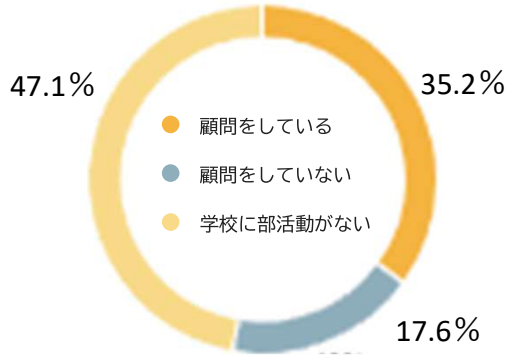
【性別】



【学級担任】



【部活動】



教員の働き方に関する意識調査　設問一覧

アンケート設問一覧

Q1【働き方改革に対する認識】
各学校や教育委員会では、様々な働き方改革の取組を進めていますが、業務負担の軽減や、各教員のライフスタイルに合わせた柔軟な働き方の推進など、以前と比べて、働き方が改善していると思いますか。

Q2【働き方に関する状況】
あなたの現在の働き方について伺います。
(1)授業準備の時間が取れていると感じていますか。(管理職の方は、あなたの学校の教員の状況についてお答えください。)
(2)児童・生徒の悩みや相談に対応する時間が取れていると感じていますか。
(3)仕事と仕事以外の生活とのバランスについて満足していますか。
(4)教員としての仕事そのものについて満足していますか。
(5)同僚や先輩に気軽に相談することができますか。

Q3【時間外勤務の状況】
(1)令和8年6月のあなたの「時間外在校等時間」は、どの程度でしたか。
(2)(1)で回答したあなたの「時間外在校等時間」について、どのように感じていますか。

Q4【業務負担の大きい業務①】
あなたの在校等時間に大きく影響し、負担に感じる業務はどれですか。二つ考えていただき、まず一つ、以下から選んでください。

Q5【見直しが進まない理由①】
Q4で選択した業務について、見直しが進まない主な理由を選んでください。

Q6【業務負担の大きい業務②】
あなたの在校等時間に大きく影響し、負担に感じる業務負担をもう一つ選んでください。

Q7・Q5と同内容を問う設問。

Q8【見直しに必要な対策】
学校で業務の見直しを進める上で、有効な取組は何ですか。(最大3つ)

Q9【業務の見直し(学校行事)】
学校行事の準備・運営に関し、業務の一部を外部に依頼して実施することが可能と考えられる学校行事は何ですか。(複数回答)

Q10【業務の見直し(学校行事)】
学校行事の準備・運営のうち、外部に依頼が可能と考えられる業務は何ですか。(複数回答)

Q11【教員の意識・職場の風土】
あなたの学校では、次のような職場の雰囲気や考え方がありますか。それぞれについて、「とてもある」から「全くない」までの4段階で回答してください。
①「児童・生徒のための業務であれば、時間をかけてでも丁寧に行うことが大切である」という雰囲気がある。
②「教材作成や分掌の担当業務等においては、自分で一から行うことが大切である」という雰囲気がある。
③「業務を見直す際、新しいやり方で実施することに対して、慎重論や不安がある」という雰囲気がある。
④「業務の削減は、学校の運営や子供の学びにマイナスの影響がある」という懸念がある。
⑤「周囲の教員が忙しそうにしている中では、早く退勤しづらい」という雰囲気がある。

Q12【業務の見直しの意思決定】
あなたの学校では、業務の削減・見直しはどのように行われていますか。最も当てはまるものを選んでください。

Q13【柔軟な働き方】
あなたの学校では、育児や介護のための休業・休暇制度や時差勤務等の勤務制度を利用しやすいと感じますか。

Q14【柔軟な働き方】
各教員のライフスタイルに合わせた教員の柔軟な働き方を実現するために、どのようなことが必要だと思いますか。最も当てはまるものを選んでください。

Q15【属性】

教員の働き方に関する意識調査

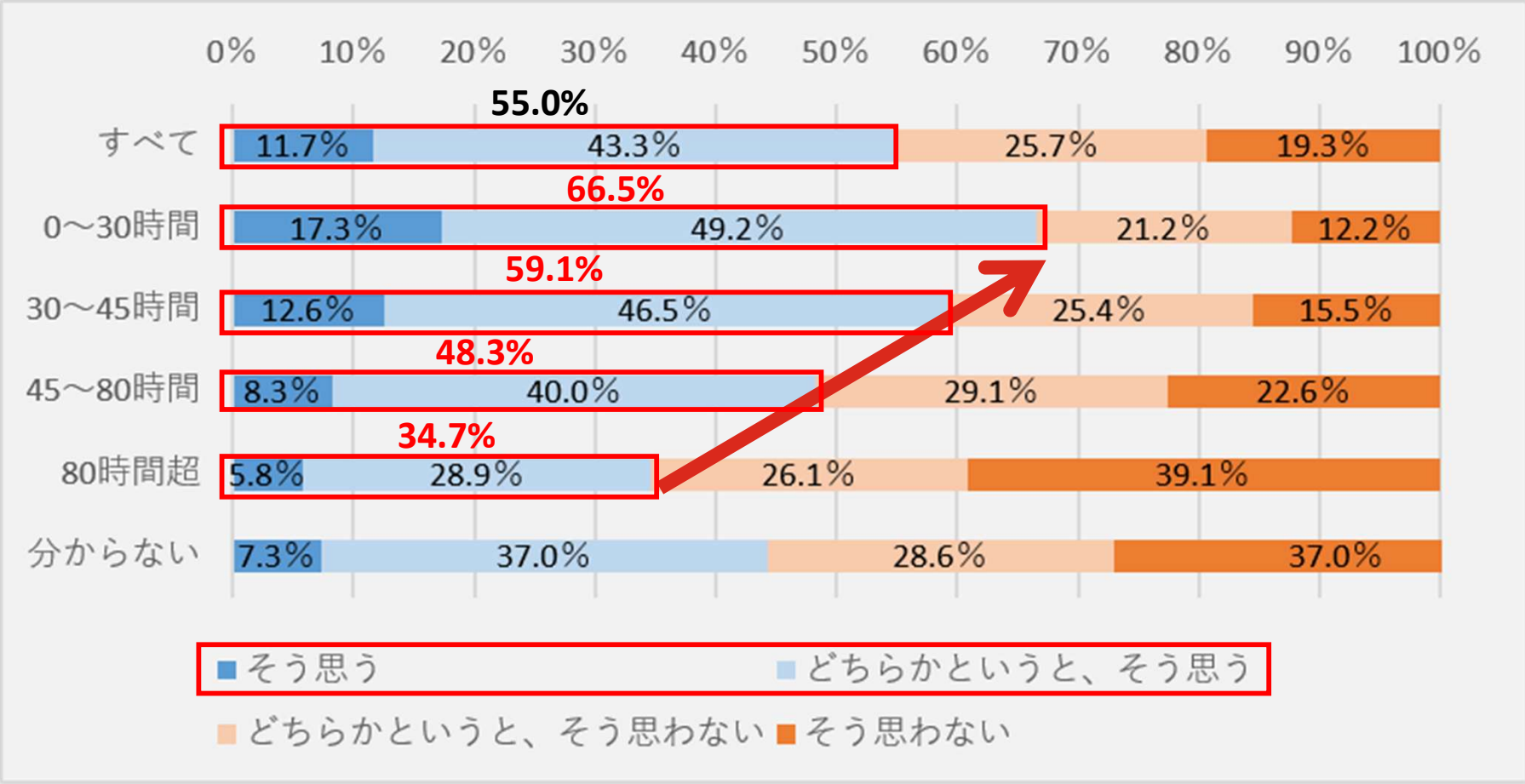
Q1 働き方に対する認識

「**業務負担の軽減**や、各教員の**ライフスタイルに合わせた柔軟な働き方**の推進など、**以前と比べて、働き方が改善している**と思いますか。」

×

Q3 働き方に対する認識

「**令和8年6月**のあなたの「**時間外在校等時間**」は、**どの程度**でしたか」



◆「**以前と比べて働き方が改善している**」と回答した教員ほど、**時間外在校等時間が少ない傾向**にある。

教員の働き方に関する意識調査

Q4・6 業務負担の大きい業務

「在校等時間に大きく影響し、負担に感じる業務（2つ選択）」

×

Q5・7 見直しが進まない理由

「（負担に感じる業務について）見直しが進まない主な理由」

	1位	2位	3位
①全業務	教育活動・学校運営上の必要性が高い	学校単位では対応が困難	見直しの方法が分からない
②負担に感じる業務別	1位	2位	3位
校務分掌	教育活動・学校運営上の必要性が高い（34.8%）	校内の合意形成が困難（19.0%）	予算・人員の制約（15.9%）
調査・統計への回答、文書作成、資料配付	学校単位では対応が困難（34.8%）	見直しの方法が分からない（18.3%）	教委や学校の方針、学習指導要領等との整合性がとれない（18.1%）
授業準備・教材研究	教育活動・学校運営上の必要性が高い（63.2%）	見直しの方法が分からない（13.1%）	予算・人員の制約（7.7%）
保護者等との連絡・調整・対応	保護者の理解を得にくい（54.6%）	教育活動・学校運営上の必要性が高い（15.7%）	学校単位では対応が困難（9.8%）
校内の会議・打合せ	校内の合意形成が困難（38.3%）	教育活動・学校運営上の必要性が高い（30.7%）	見直しの方法が分からない（11.8%）
学校行事の準備・運営	教育活動・学校運営上の必要性が高い（33.1%）	校内の合意形成が困難（19.9%）	前例や他校との違いへの懸念（11.0%）
学習評価・成績処理	教育活動・学校運営上の必要性が高い（46.2%）	見直しの方法が分からない（15.9%）	教委や学校の方針、学習指導要領等との整合性がとれない（10.0%）
部活動指導	予算・人員の制約（26.0%）	学校単位では対応が困難（19.9%）	教育活動・学校運営上の必要性が高い（16.5%）
事件・事故対応	教育活動・学校運営上の必要性が高い（26.3%）	学校単位では対応が困難（22.9%）	保護者の理解を得にくい（19.6%）
土曜授業	学校単位では対応が困難（32.3%）	教委や学校の方針、学習指導要領等との整合性がとれない（17.4%）	教育活動・学校運営上の必要性が高い（15.4%）
地域・関係機関との連絡・調整	地域の理解を得にくい（24.3%）	教育活動・学校運営上の必要性が高い（23.9%）	学校単位では対応が困難（17.4%）
施設・設備の管理	予算・人員の制約（40.9%）	学校単位では対応が困難（29.3%）	教育活動・学校運営上の必要性が高い（9.6%）
給食の時間における対応	教育活動・学校運営上の必要性が高い（24.7%）	予算・人員の制約（23.2%）	見直しの方法が分からない（17.9%）

◆**見直しが進まない理由**について、**業務ごとに主な要因が異なる**が「**学校単位では対応が困難**」「**見直しの方法が分からない**」といった回答も多く、**教員個人単位では見直すことが難しい業務**も多くみられる。

教員の働き方に関する意識調査

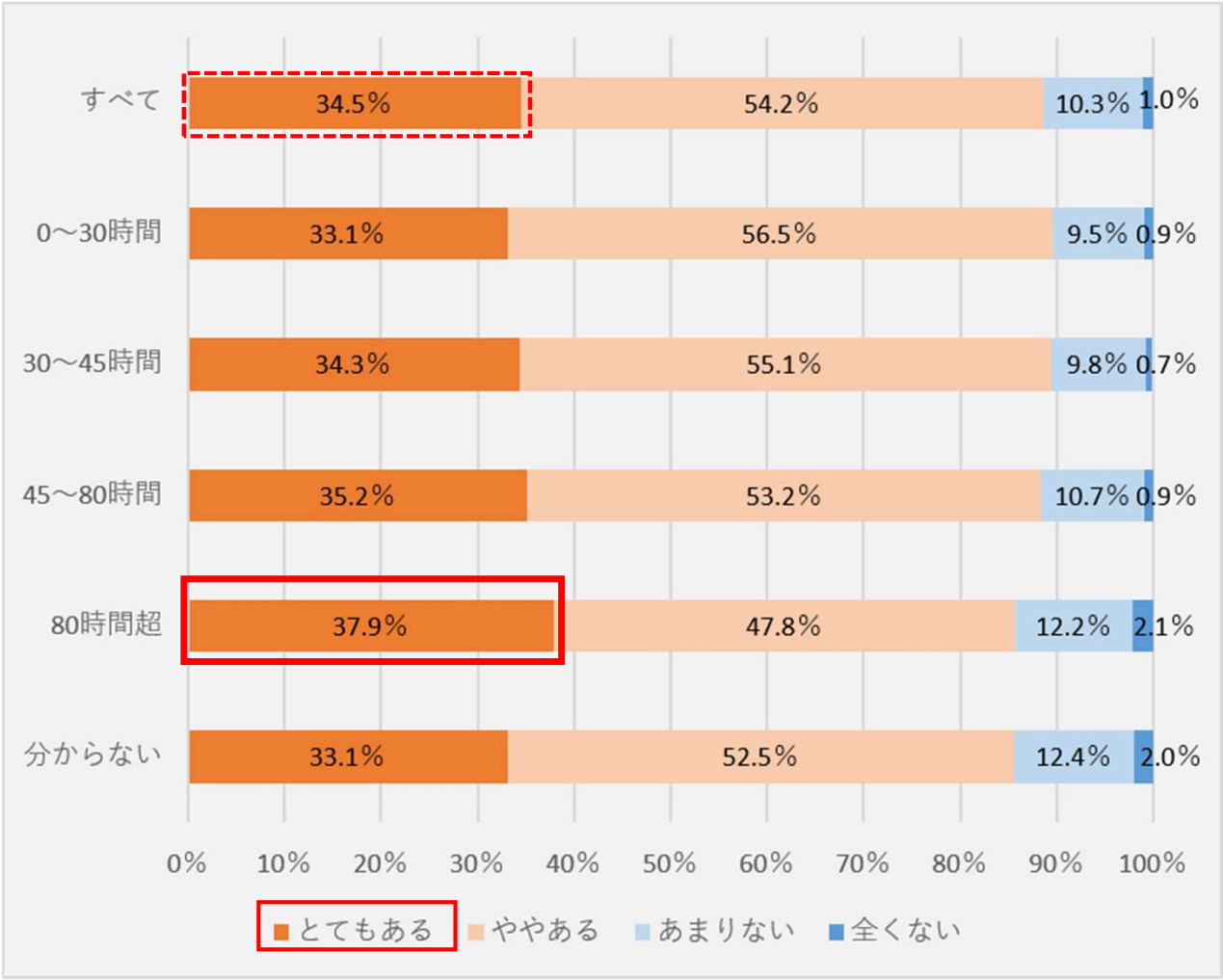
Q3 時間外在校等時間の状況

「**令和8年6月**のあなたの**時間外在校等時間**」

×

Q11 教員の意識・職場の風土①

「**児童・生徒のための業務**であれば、「**時間をかけてでも丁寧に行うことが大切**である。」という雰囲気がある。」



◆ 時間外在校等時間が**80時間超**の教員は、「**児童・生徒のための業務**であれば、**時間をかけてでも丁寧に行うことが大切**である。」という**雰囲気がとてもある**と回答した割合が**37.9%と高い傾向**にある。

教員の働き方に関する意識調査

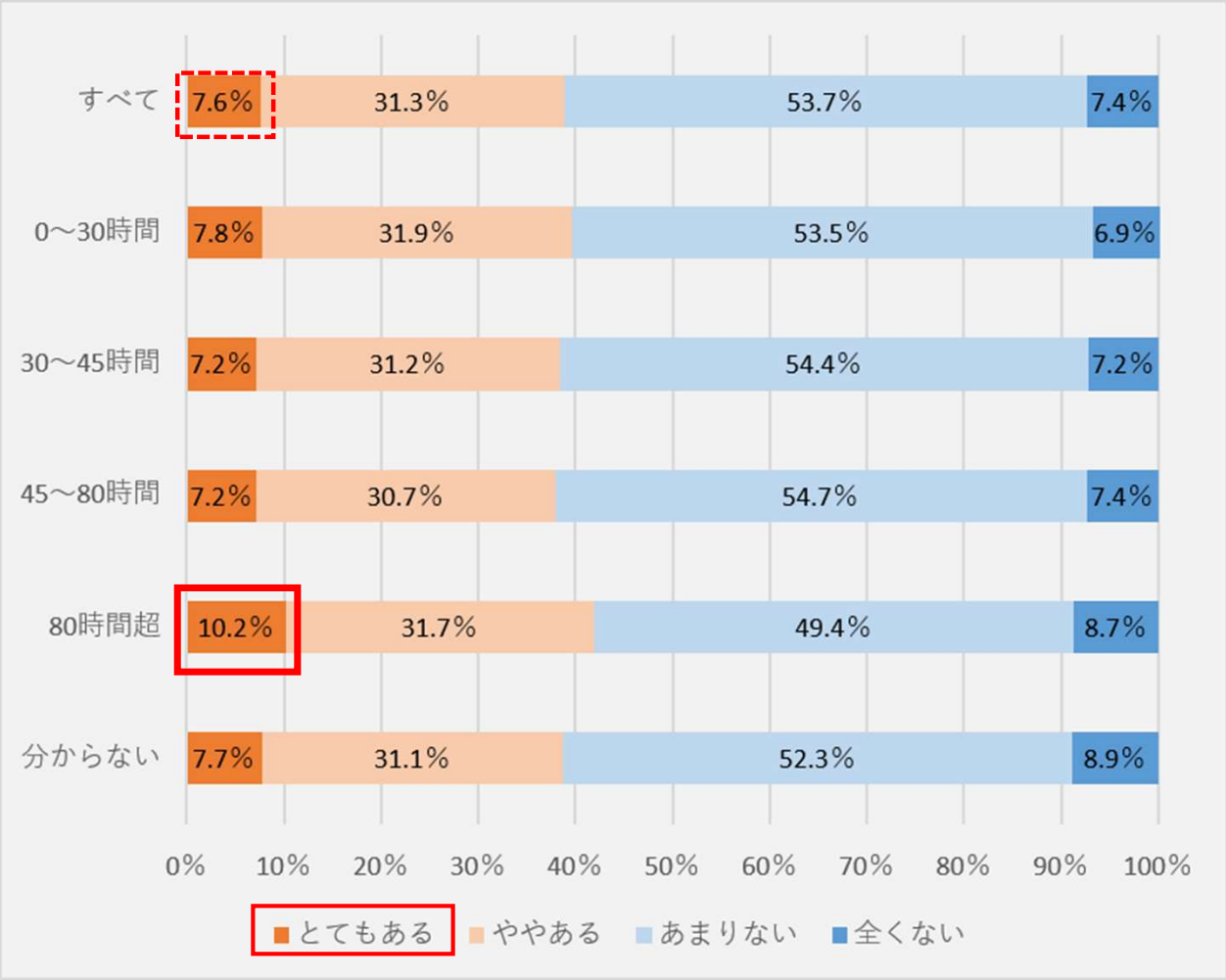
Q3 時間外在校等時間の状況

「**令和8年6月**のあなたの**時間外在校等時間**」

×

Q11 教員の意識・職場の風土②

「「**教材作成や分掌の担当業務**等においては、**自分で一から行うことが大切**である。」という雰囲気がある。」



◆時間外在校等時間が**80時間超**の教員は、「**教材作成や分掌の担当業務**等においては、**自分で一から行うことが大切**である。」という**雰囲気がとてもある**と回答した割合が**10.2%と高い傾向**にある。

教員の働き方に関する意識調査

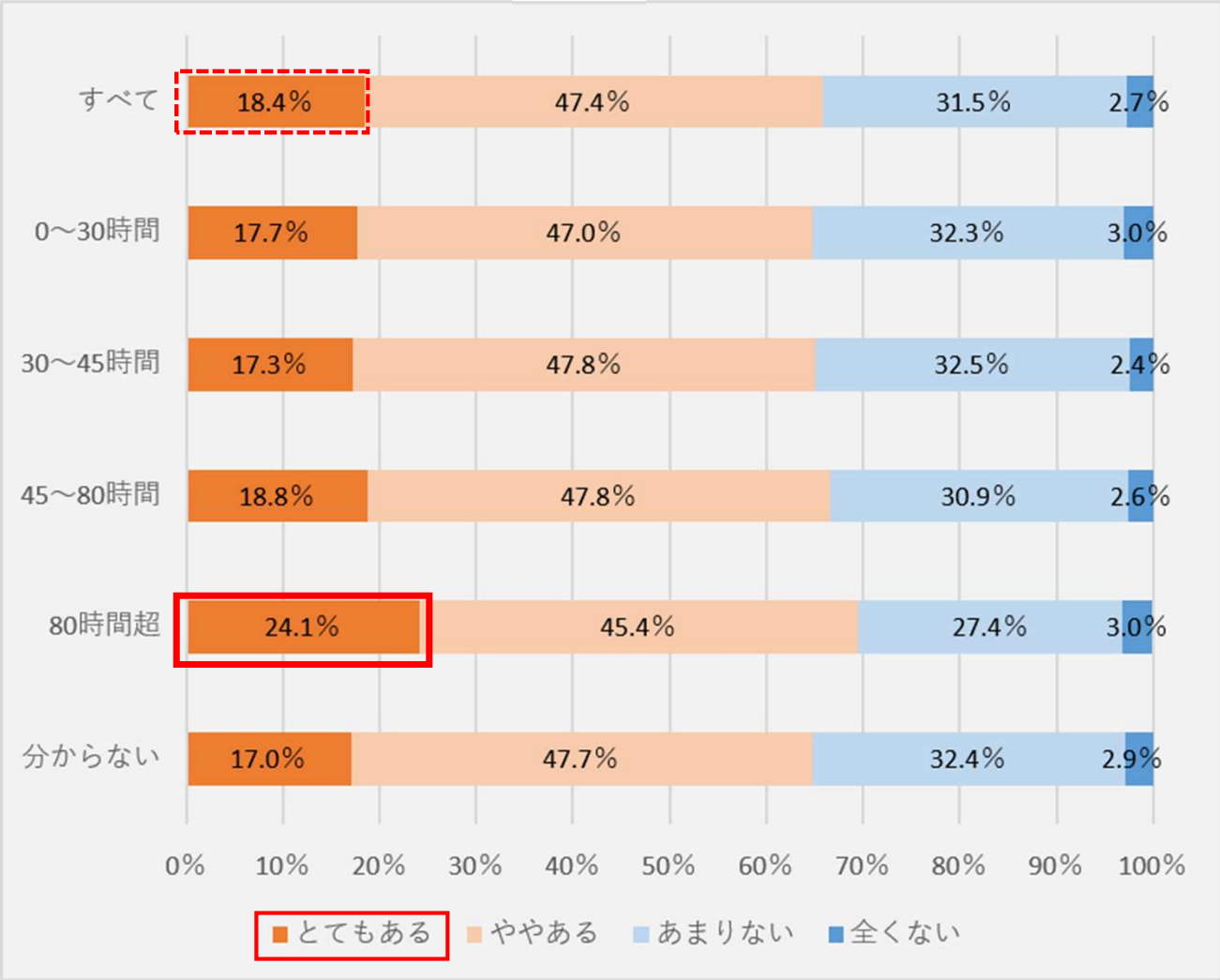
Q3 時間外在校等時間の状況

「令和8年6月のあなたの**時間外在校等時間**」

×

Q11 教員の意識・職場の風土③

「「**業務を見直す際、新しいやり方で実施**することに対して、**慎重論や不安**がある。」という雰囲気がある」



◆時間外在校等時間が**80時間超**の教員は、「**業務を見直す際、新しいやり方で実施**することに対して、**慎重論や不安**がある」という**雰囲気がとてもある**と回答した割合が**24.1%と高い傾向**にある。

教員の働き方に関する意識調査

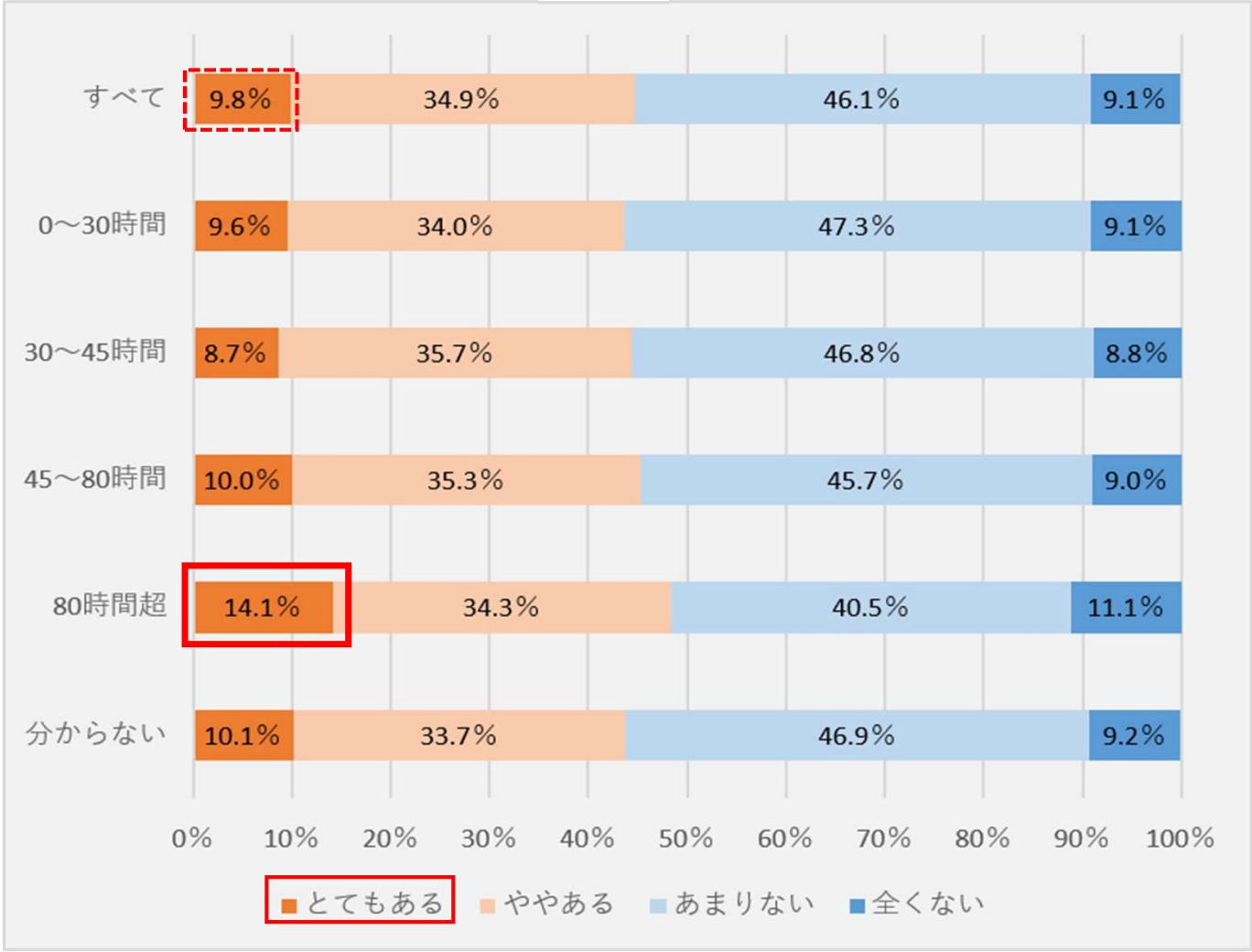
Q3 時間外在校等時間の状況

「令和8年6月のあなたの時間外在校等時間」

×

Q11 教員の意識・職場の風土④

「「業務の削減は、学校の運営や子どもの学びにマイナスの影響がある。」という雰囲気がある。」



◆時間外在校等時間が80時間超の教員は、「業務の削減は、学校の運営や子どもの学びにマイナスの影響がある」という雰囲気がとてもあると回答した割合が14.1%と高い傾向にある。

教員の働き方に関する意識調査

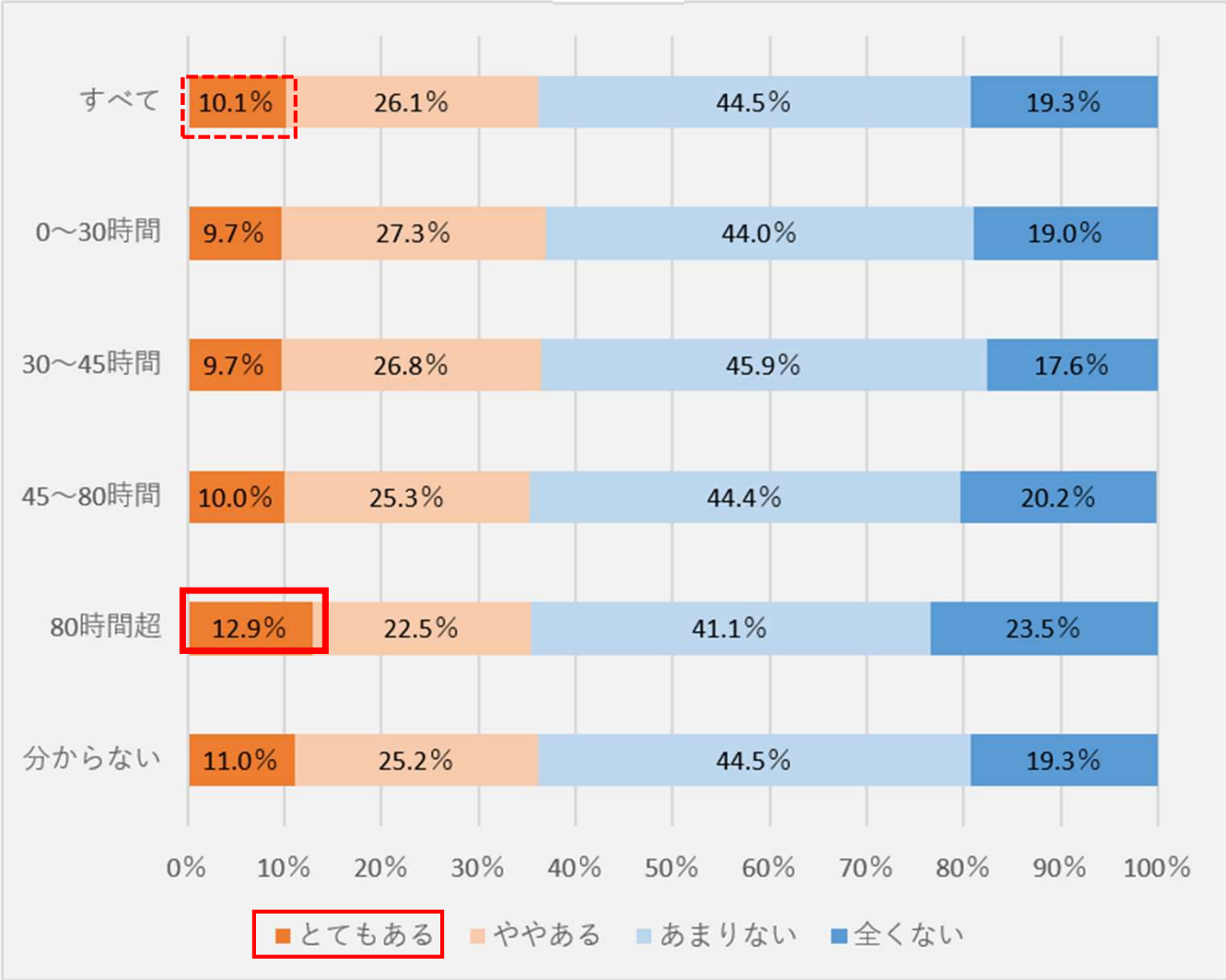
Q3 時間外在校等時間の状況

「**令和8年6月**のあなたの**時間外在校等時間**」

×

Q11 教員の意識・職場の風土⑤

「「**周囲の教員が忙しそう**にしている中では、**早く退勤しづらい**」という雰囲気がある。」

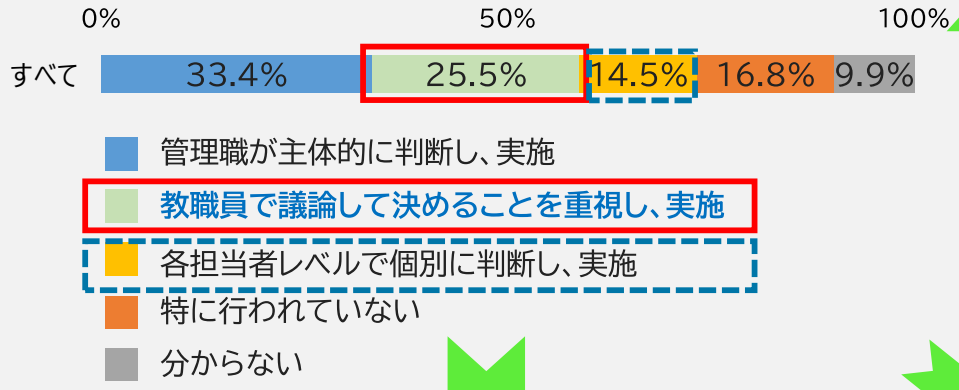


◆時間外在校等時間が**80時間超**の教員は「**周囲の教員が忙しそう**にしている中では、**早く退勤しづらい**」という**雰囲気がとてもある**と回答した割合が**12.9%と高い傾向**にある。

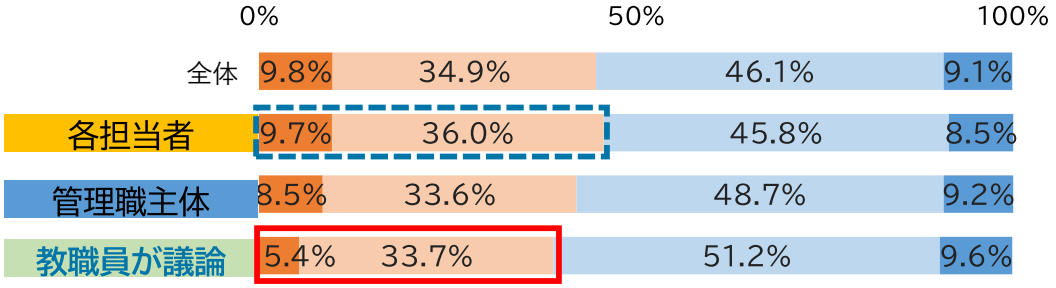
教員の働き方に関する意識調査

Q12 業務の見直しの意思決定 × Q11 教員の意識・職場の風土

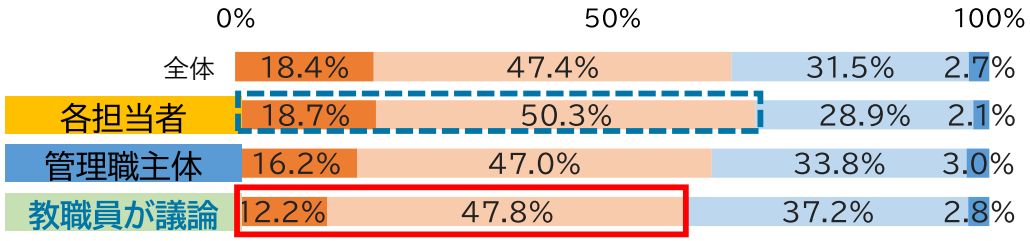
Q12 業務の削減・見直しの決め方



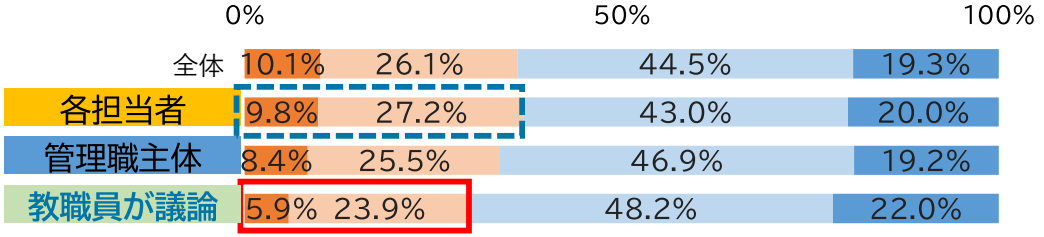
Q11-4 「業務の削減は、学校運営や子供の学びにマイナスの影響がある」という懸念がある。



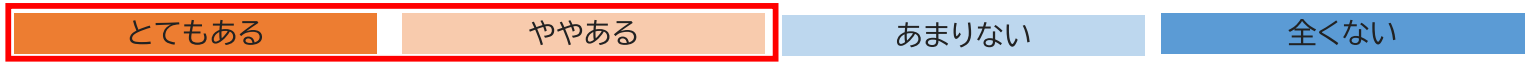
Q11-3 「業務を見直す際には、新しいやり方で実施することに対して、慎重論や不安がある」という雰囲気がある



Q11-5 「周囲の教員が忙しそうにしている中では、早く退勤しづらい」という雰囲気がある



Q11の回答：見直し等に対する慎重論



◆業務の削減・見直しを「**各担当者レベルで個別に判断し、実施**」と回答した教員よりも、「**教職員で議論して決めていくことを重視**」と回答した教員の方が、**業務の削減・見直し**や、**早く退勤すること**についての**抵抗感が少ない** 傾向がみられる。

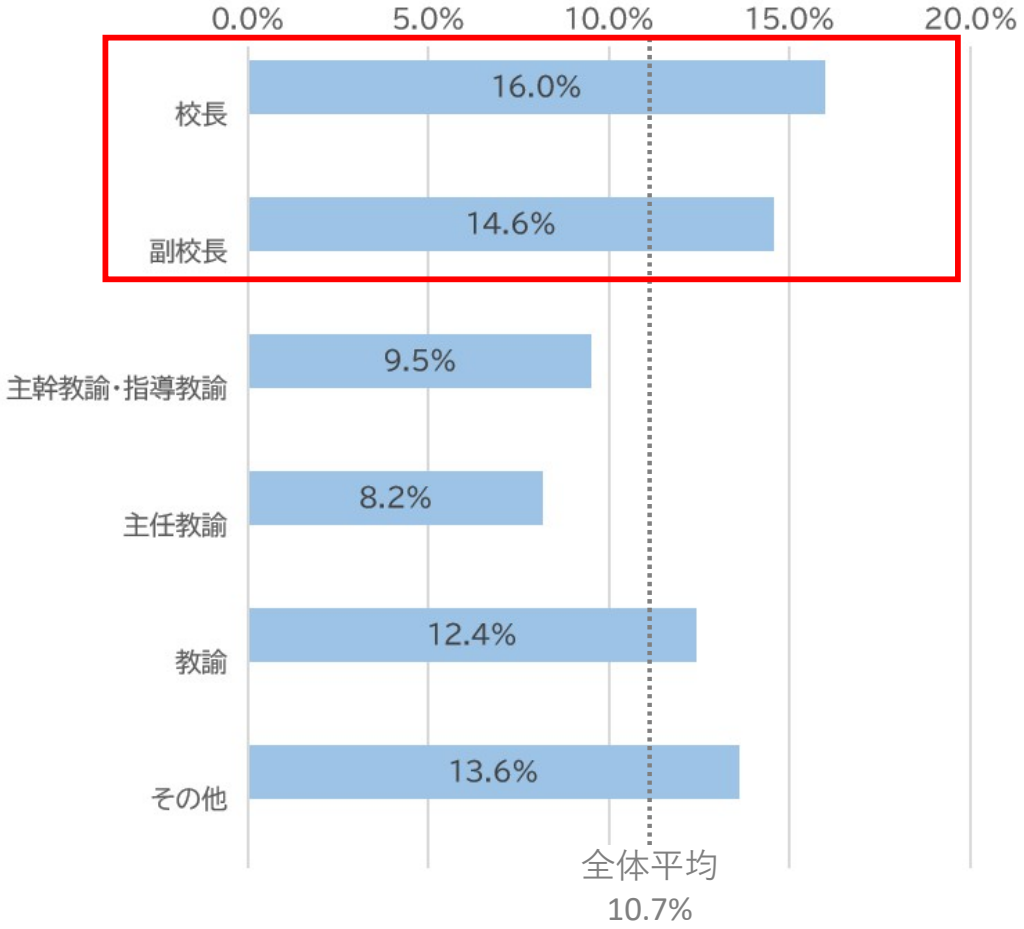
教員の働き方に関する意識調査

Q8 見直しに必要な対策

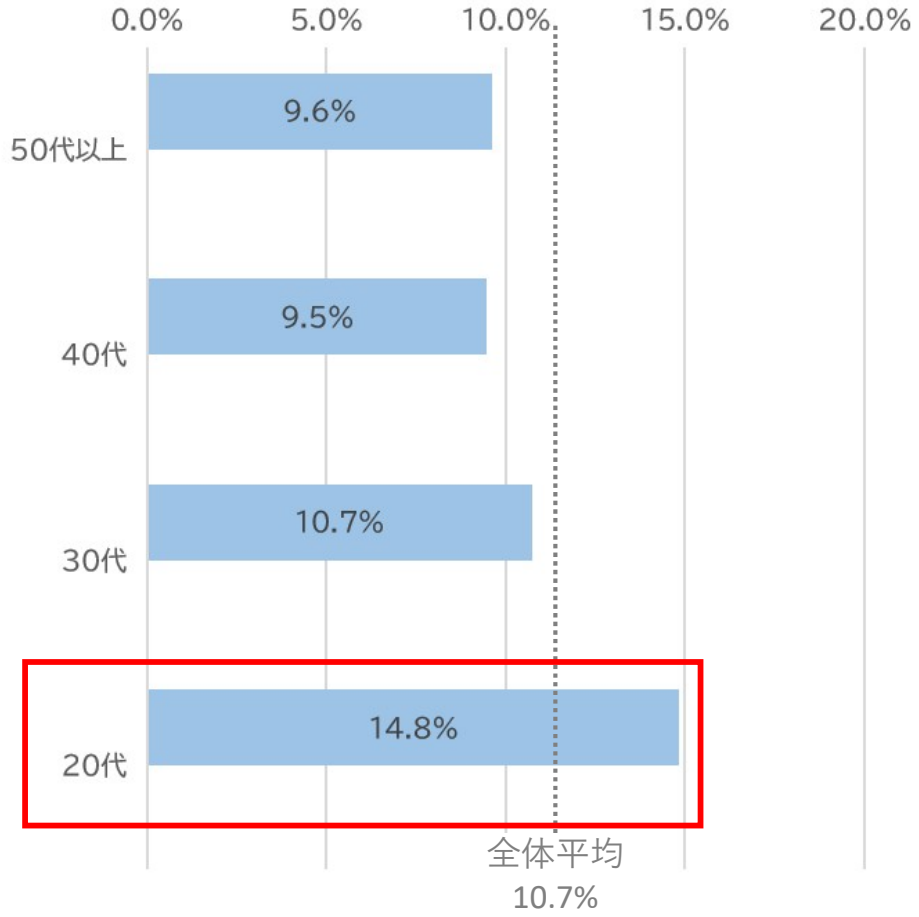
「学校で**業務の見直し**を進める上で、**有効な取組**は何ですか。（最大3つ）」のうち「**ICT・AIの活用**」の選択者

× 【職層・年代】

➢職層別



➢年代別



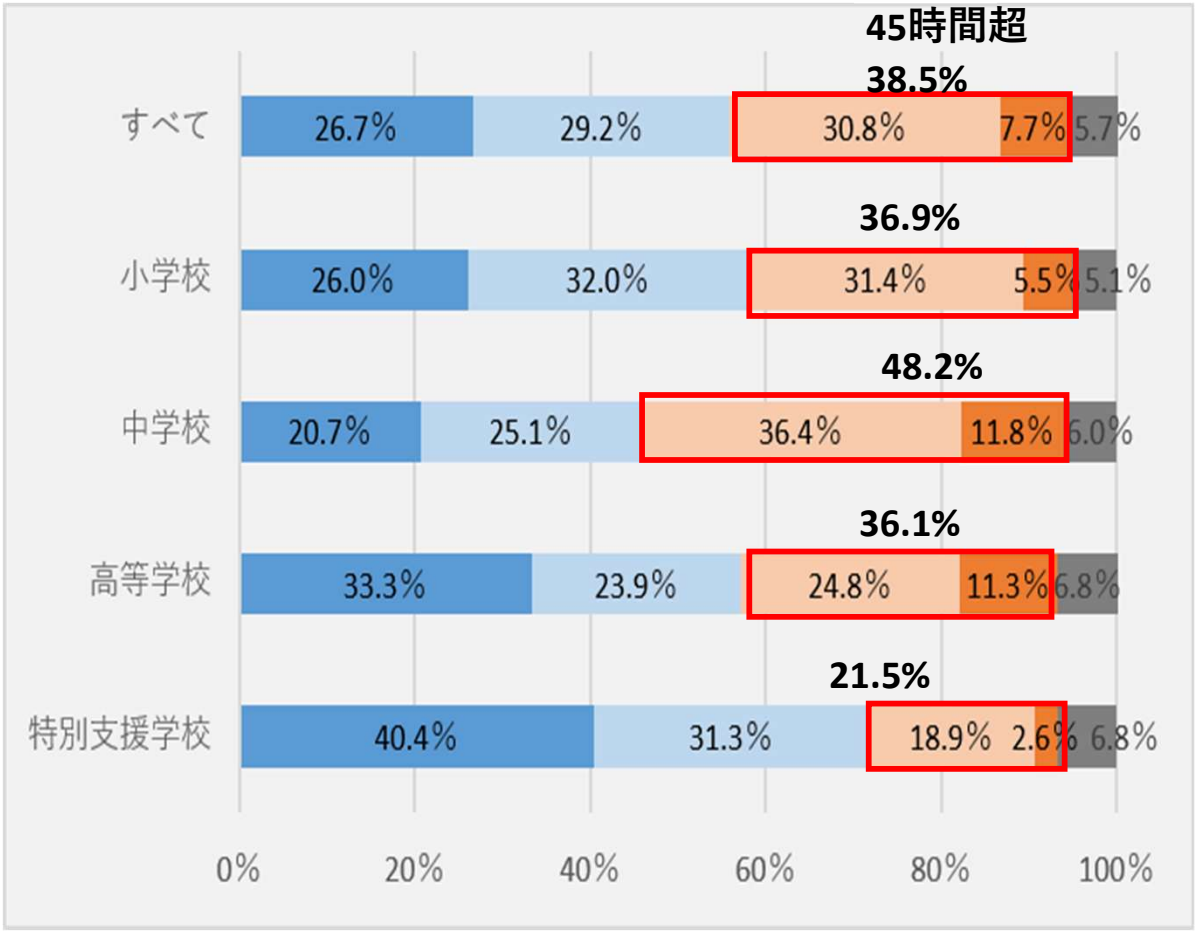
◆「**ICT・AIの活用**」が有効と回答した割合について、**職層別**では「**管理職**」が、**年代別**では、「**20代**」が最も高く、**中堅層の教員の活用促進が課題** である。

【参考①】 教員の働き方に関する意識調査

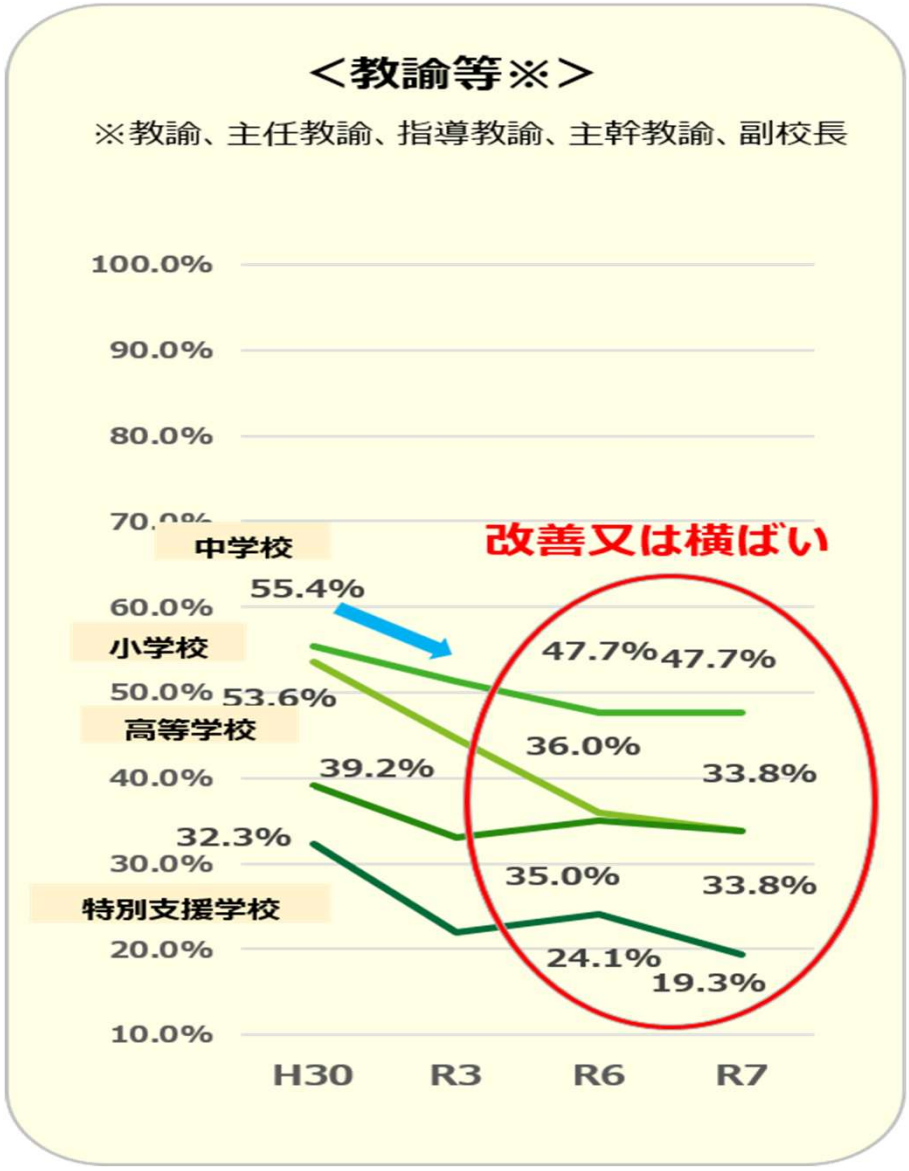
Q3 超過勤務の状況

グラフは第３回資料より抜粋

【令和8年6月】「あなたの「時間外在校等時間」は、どの程度でしたか」 × 【校種】



【参考】
時間外在校等時間（1か月当たり45時間超）
【平成30年・令和3年・6年・7年　10月】の実績



【参考②】 教員の働き方に関する意識調査

Q11 教員の意識・職場の風土

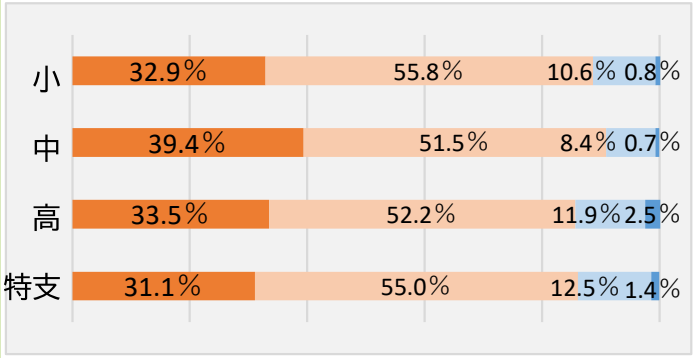
グラフは第３回資料より抜粋

あなたの学校では、次のような**職場の雰囲気や考え方**がありますか。
それぞれについて、「とてもある」から「全くない」までの**4段階**で回答してください。

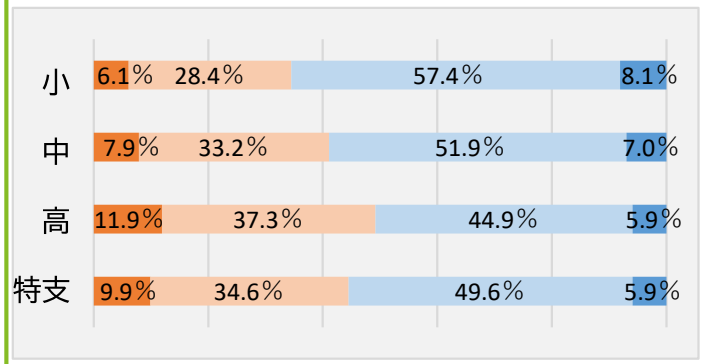
× 【校種】

凡例：とてもある／ややある／あまりない／全くない

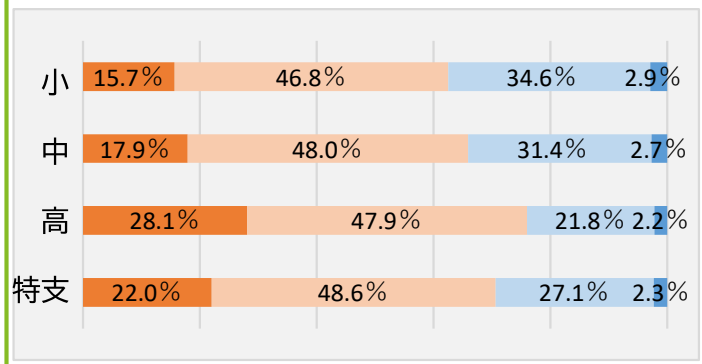
① 「児童・生徒のための業務であれば、**時間をかけてでも丁寧に行うことが大切**である」という雰囲気がある。



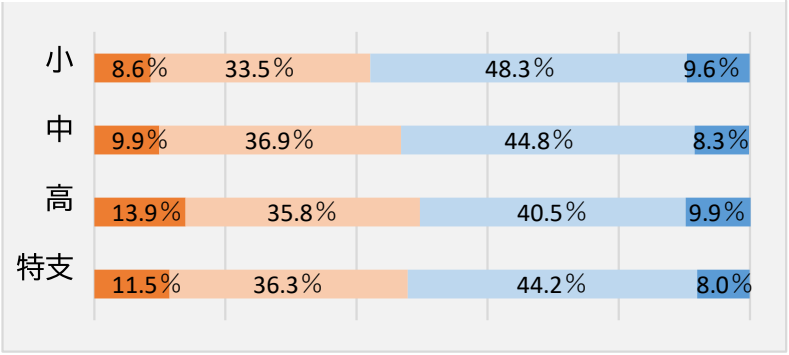
② 「教材作成や分掌の担当業務等においては、**自分で一から行うことが大切**である」という雰囲気がある。



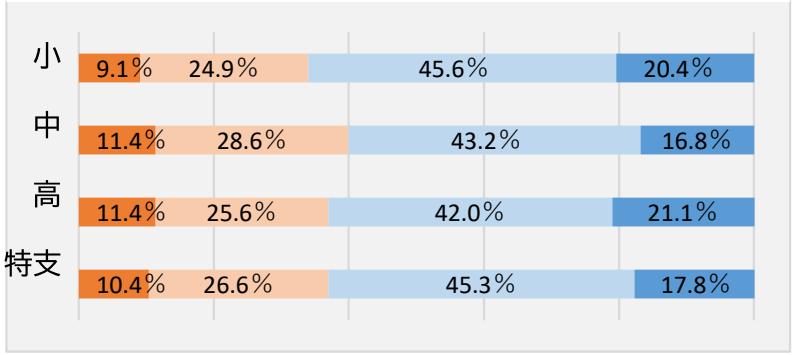
③ 「業務を見直す際、新しいやり方で実施することに対して、**慎重論や不安**がある」という雰囲気がある。



④ 「業務の削減は、**学校の運営や子供の学びにマイナスの影響**がある」という懸念がある。



⑤ 「周囲の教員が忙しそうにしている中では、**早く退勤しづらい**」という雰囲気がある。

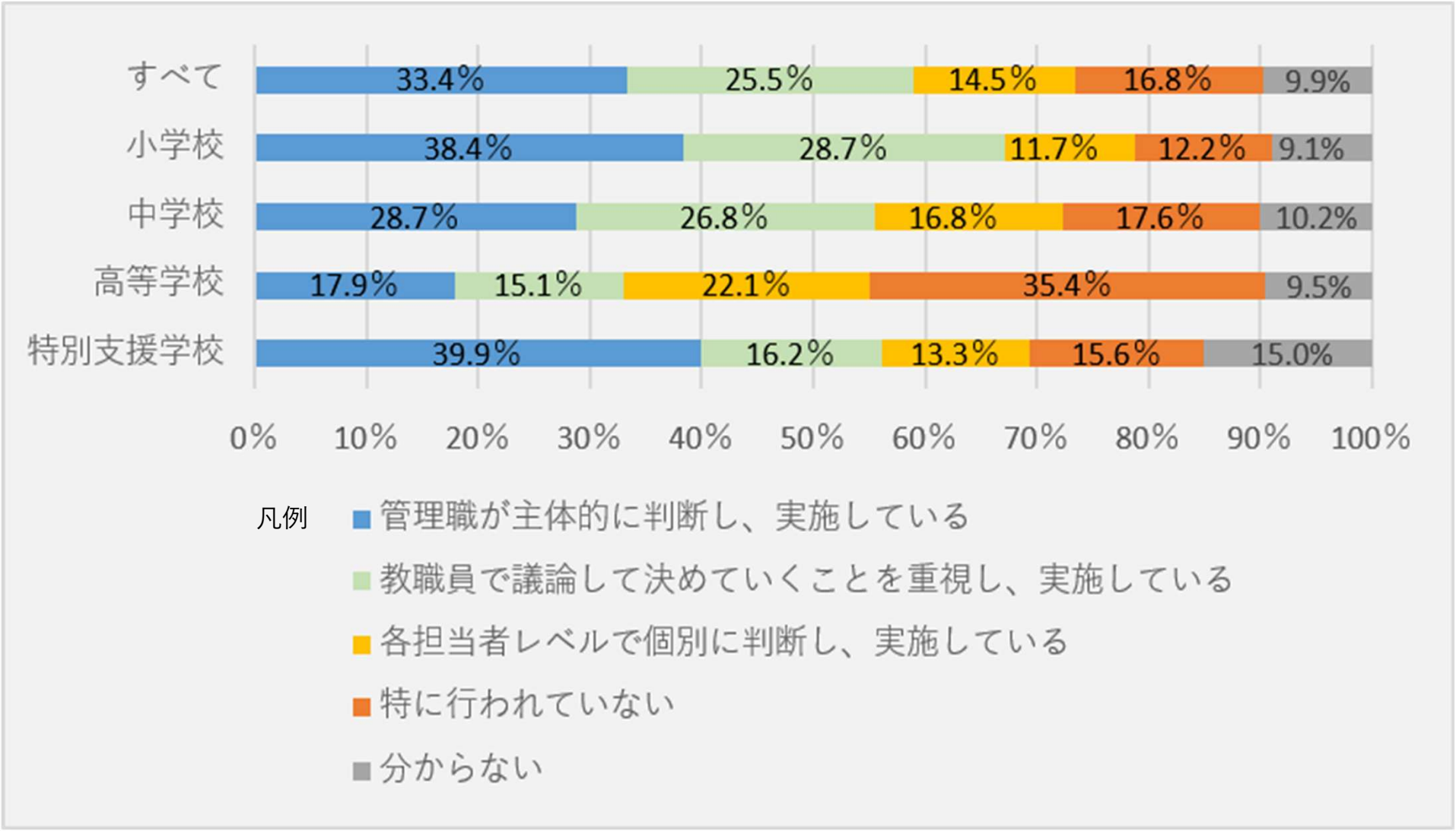


【参考③】 教員の働き方に関する意識調査

Q12 業務の見直しの意思決定

グラフは第３回資料より抜粋

あなたの学校では、業務の削減・見直しはどのように行われていますか。 × 【校種】



アンケート結果から見受けられる傾向の例

1　教育活動のためなら、どんなに時間をかけることもやむを得ない

▶ 時間や効率に関係なく、何事においても**丁寧な対応**や**教育活動**が行われる場合もある

2　教育の質を「全て自分だけの努力」で高めていきたいとの思い

▶ 教材作成や担当業務について、**自分で一から考え、一人で抱え込む**ことに拘る場合もある

3　変えることによる影響を強く懸念してしまう

▶ 現状維持による課題より、**変化や異なる対応**による**リスク**を重く見る場合もある

こうした考え方により、学校に**文化や慣習が作られてしまう場合**も考えられる。

ポイント

- これらの**良い面も生かしながらも教員の働きやすい環境**をどう作り上げていくべきか
- **誇り**を持って**献身的に取り組む**ことと、**長時間勤務を減らす**ことを**両立**するために**どのように支援**していくべきか

学校における新たな働き方に向けた実行計画素案（案）について

資料２のとおり